



Title	創刊に寄せて
Author(s)	奥田, 博之
Citation	大阪大学言語文化学. 1992, 1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78194
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

創刊に寄せて*

奥田 博之**

この度、われわれ大阪大学大学院言語文化研究科に言語文化学会が組織され、機関誌『大阪大学言語文化学』が誕生するはこびになったことは、まことに喜ばしいことである。

言語文化研究科は、1専攻・5講座で、学生定員が前期18名、後期9名からなる博士課程の大学院であるが、発足したのは平成元年（修上課程）、大学審議会で大学院の拡充に関する審議が始まったばかりの頃、いわばその先鞭をつける形で設置された。国際化、情報化という時代、社会の要請に積極的に応じ得るものとして、広く人文、社会、自然の諸学科のいずれの分野からも人材を集め、それぞれの専門を基盤としながら、学際的な研究と教育の体系を築こうとする新しい構想の独立研究科である。

「言語文化」といえば、一般にもっぱら、人文系の研究領域と考えられがちであるが、「言語」にしろ、「文化」にしろ、広く深く人々の生きざまに係わるものである限り、さまざまな既成の学問と関係を持ち、さまざまな分野、角度からのアプローチが行なわれて然るべきものであろう。言語文化研究科は、そのため、(1)国際環境における言語文化の交流や相互の影響関係とそのありようの研究、(2)言語学の成果を活用した異文化間の言語コミュニケーションの動態の研究、(3)情報社会における言語文化研究の新しい手段としてコンピュータの活用と手段そのものの可能性の探求という3分野を基幹講座とし、(4)情報資料分析のための応用言語技術の研究と(5)地域言語文化の研究からなる2協力講座を設けており、さらには、後期課程の学生のため、論文指導以外に、特に新たに7つの特別研究を用意している。広範で多様な研究領域と研究方法が求められる言語文化研究には、なお多くの補強整備の余地があることは明らかであるが、われわれはこの準備を整えるべく努力している。

全国各地から集まった現役、社会人、そして留学生の諸君は、間借り住まいという悪条件の下、それぞれの専門を生かしながら研究に励んでいるが、地道な研

* Preface (Hiroyuki OKUDA)

** 大学院言語文化研究科長（大阪大学言語文化学会会長）

究の積み重ねが言語文化学という新しい学問世界を切り開くものと確信している。言語文化学会の発展を期待すると共に、諸君のご鞭撻を乞う次第である。